

令和7年9月2日

No. 6



発行責任者
校長 有崎 美紀

自ら伸びる



府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

【2学期始業式 校長の話】 平和を問い直す

今年の夏休みは、澄み渡る美しい青空と、肌をさすような日差しの強さが印象的でした。

また、今年の夏は、平和について考える機会がたくさんありました。「被爆80年」という言葉をニュースや新聞で見聞きした人もいるでしょう。今から80年前まで日本は戦争をしていました。80年前の昭和20年8月6日午前8時15分、広島に一発の原子爆弾が投下され、広島は焼野原になり、たくさんの人々が亡くなりました。府中町は広島市の隣にあるため、原爆の被害にあった人々がたくさん避難して来られたところでもあります。

谷川俊太郎さんという詩人がつくられた「平和」という詩の中に、次のようなフレーズがあります。

平和 それは花ではなく 花を育てる土

私たちは、花を見るとき「きれいだな」とその美しさに癒されます。しかし、その花を支えているのは、しっかりと根を張ることのできる土です。野菜だって、土から芽を出し、成長し、採取され、食べられることによって、私たちの命を支えています。平和とは、土のように、私たちの暮らしを支えてくれているものなのかもしれません。けれども、土もほったらかしたままでは、植物が育つ土にはなりません。やわらかく耕し、新しい空気を入れ、適度な水分や養分を含ませることで、植物の育ちにとってよりよい土となっていきます。

つまり、平和も、土と同じように、つくっていくものなのです。

1学期の終業式で、挨拶の話をしました。「おはよう」「さようなら」の挨拶のほかに、「ありがとう」「ごめんなさい」を意識した暮らしをつくっていくという話でした。

「ありがとう」は、「有り難し」という言葉が由来とされています。文字どおり「有ることが難しい」ということで、「めずらしい」とか「めったになく貴重である」という意味を表しています。

私たちは今、生きて、平和の土の上に立っています。これは、決して当たり前のことではなく、80年前の原爆で傷ついた多くの人々が、哀しみを心の底に抱えながら、平和の土を耕してこられたお陰です。

被爆80年という節目。平和について考えたとき、あらためて命を感じ直すとともに、今、ここに自分があることに、「ありがとう」という気持ちがわいてきませんか。

さて、今日から2学期のスタートです。

自分を育てるのは自分です。自分を動かすのも自分です。

「ありがとう」という言葉を大切にする自分でありたいし、そんな学校でありたいものです。



〈児童代表の言葉〉

「ふしぎな理科」

3年 代表児童

ぼくは、1学期、初めて理科の学習をしました。

理科が始まった時、なぜ、雲は空にできるのか？なぜ、かげができるのか？星の正体は何か？など、知りたいことがたくさんありました。

ぼくは、5月にホウセンカの種をまいて観察したり、チョウの幼虫をじっさいに育てたりしました。毎日ティッシュに水をかけて幼虫が食べるキャベツの葉がかわかないように気を付けました。ぼくの班が見つけたチョウの幼虫は、さなぎから成虫に育ち、教室の窓から飛び立っていきました。

もう1つの学習は、風とゴムの力で車を動かす実験です。ゴムは、伸ばす長さが長くなるほど、ゴムが元に戻ろうとする力が大きくなり、車は前に進みました。ゴールインゲームでは、そのゴムの力を使って、どうすれば100点の8mに車を止めることができるかを、それまでの実験の結果から考えました。

ぼくの班では、〇〇さんが最初、ゴムを14cm伸ばして50点の所に車を止めました。少し行き過ぎてしまいました。次に、ぼくが13cmゴムを伸ばしてやってみると、100点に近づいたけれど、また、通り過ぎてしまいました。次に〇〇さんが12cm伸ばしてやってみると、ぎりぎり届きませんでした。この結果から、ぼくの車では、12cm5mm伸ばして手をはなせば、100点になると考えました。何度も試してみて、分かっていくんだなと思いました。

2学期の理科でも、みんなで予想や方法を話し合っ、実験をしていきたいです。みんなの考えを聞いていると、新しい発見があります。ぼくは、これから電気やじしゃくの働きについて調べてみたいです。

教え合いがあっ、仲良くなれる授業を3年1組のみんなで目指したいと思います。

生きた言葉に出会い、生きた言葉を深める

～夏休みも学びは続いています～

平和の鐘つきと折り鶴奉納・府中町原爆死没者慰霊式と平和祈念式典参加

7月8日(月)の6年生の総合的な学習の時間に久蔵寺のご住職である佐竹英信さんに平和への思いについてお話をいただきました。そのご縁で、8月6日(水)に6年生有志約20名が久蔵寺を訪問しました。8時15分に原爆ドームの方角に向かって黙禱し、お寺の鐘をつかせていただき、6年生一人一人が平和を願って折った鶴を奉納しました。その後、府中町役場前の榎川河川敷にある府中町原爆慰霊碑で、先に府中町原爆死没者慰霊式及び平和祈念式典に参加していた児童会執行部の児童と合流し、原爆で犠牲になった方のご冥福と世界平和を祈りました。今年は戦後80年の節目の年にあたり、ニュース等で話題に挙がることも多かったと思いますが、今一度、平和について考えるきっかけとなりました。



また、8月20日(水)には安芸府中高校の生徒さんに来校していただき、原爆の子の像のモデルである佐々木禎子さんの生涯を描いた英語紙芝居「原爆の子さだ子の願い」を読んでもらいました。英語の意味は分からなかった子が多かったようですが、高校生の紙芝居に込めた平和への思いはしっかりと受け止めていました。「戦争の恐ろしさや悲惨さだけでなく、国と国をつなぐこと、紙芝居で人との関わりを繋ぐことが分かった。」「知るだけでは平和にならない。伝えていくことが大切。」と感想をもち、平和への思いを新たにしていました。



コミュニティ・スクール活動の「熱い」夏

夏休み中もCSサポーターさんたちによる様々な活動が行われ、多くの子どもたちが参加しました。夏休み中、地域で過ごす時間が長くなるからこそ、子どもたちの居場所づくりとして、夏休み塾やブックトーク、夏祭りや6年生合奏練習のサポート等、多くの活動が行われました。学校と地域が協働して子どもを育て見守ることができ、子どもたちはもちろん学校も地域も元気にになりました。

充実した夏休み塾

7月28日（月）と30日（水）の2日間、夏休み塾が行われました。多くの子どもたちが参加し、緑ヶ丘中学校や安芸府中高校の学生ボランティアさんが子どもたちの宿題をサポートしてくれました。参加した小学生からは、「中学生が優しく教えてくれたので、分かりやすかった。」「優しく教えてもらったし、宿題もはかどって良かった。」という声が聞かれました。また、サポートしてくれた学生からは、「小学生が分かってくれてよかった。」「やりがいを感じた。」という声が聞かれました。来年も、また開催できることを楽しみにしています。



平和ブックトーク

7月23日（水）に、戦後80年にちなんで、図書室で図書司書の平本先生が戦争や平和についての本の読み聞かせをしてくださり、たくさん子どもたちや保護者が参加しました。読み聞かせの後は、鶴を折ったり、カードにメッセージを書いたりして、共に平和を願いました。



6年生合奏練習

7月末の6日間、6年生有志が集まり、学習発表会に向けて、合奏練習を行いました。リコーダーやアコーディオン、ピアノや木琴・鉄琴、打楽器等、どの日も70人余りの児童が集まり、CSサポーターさんや卒業生のボランティアさんの力を借りながら、自主練習を行いました。日を重ねる毎に上達して、最終日には6年生の素敵なハーモニーが聞こえてきました。学年全体の力が合わさると、もっと素敵な演奏になるのではないかと思います。学習発表会当日の6年生の演奏が楽しみです。



大繁盛の夏祭り

8月9日（土）に、本校でCS夏祭りが開催されました。雨天の予報が出ていたため、会場を急遽グラウンドから体育館や児童玄関前に変更しましたが、たくさんの児童や保護者・地域の皆さんに参加していただき、大盛況の祭りとなりました。



本校の卒業生である緑ヶ丘中学校や安芸府中高校の学生ボランティアさん、安芸府中太鼓かっぽ連ひびき会や府中町盆踊り保存会や各町内会等の地域の皆さんと一緒に創り上げた夏祭りでした。

朝からの体育館内のシート敷きやブースの準備、開催時間帯の来校者の誘導、祭り終了後の後片付けに至るまで、みんなの力でやり遂げました。たくさんの人で大変賑わい、子どもたちにとっては心に残る夏休みの思い出となったのではないのでしょうか。

